

二連覇を狙う愛知学泉大学と BEST 4 入りを狙う立命館大学の一戦。両者キャプテンを怪我で欠く中、ディフェンスからリズムを作る学泉大に対し、思うようなプレイができない立命館。学泉大は、#17 高木を中心に得点を重ねていく。対する立命館は、学泉大の堅いディフェンスに思うようなプレイができない中、#18 古俣の個人技などで応戦する。ゾーンディフェンスでリズムを変えようとするも、リバウンドを取ることができず、その間も学泉大の勢いは止まることなく着実に加点していき、89-57 と学泉大が勝利を掴んだ。

第 1 Q、先制点を挙げたのは学泉大#17 高木。学泉大のオールコートプレスに思うようなプレイができない立命館は、残分 4 でタイムアウトを要求。その後、立命館#6 作田のバスケットカウント、#5 黄が 3P シュートを決めるなど、波に乗り 15-14 まで追い上げ、最後までリングに向かうも、19-14 で学泉大がリードし第 1 Q 終了。

第 2 Q、学泉大は#17 高木を中心に加点していく。対する立命館は学泉大の激しいディフェンスに攻めあぐね残分 8 で前半 2 回目のタイムアウトを要求。タイムアウト後、立命館はゾーンディフェンスに変えるも学泉大は慌てることなく#14 八木が 3P シュートを沈める。立命館は、攻撃のリズムを掴むことができず、豪快に攻めるもなかなか得点に繋がらず、44-28 でこのピリオド 25 点を獲得した学泉大がリードして前半を折り返す。

第 3 Q、後半に入っても動きの質が落ちない学泉大は、ディフェンスからリズムを作り、立命館に隙をあたえない。対する立命館は#18 古俣がバスケットカウントを獲得するもフリースローを決めきれないなど普段のプレイを出し切れず、66-36 で学泉大リードのまま第 3 ピリオド終了。

第 4 Q、立命館#18 古俣が先制点を決め、#7 鈴木が 3P シュートを沈めるも、すぐさま学泉大#6 安江がバスケットカウントを獲得。学泉大のオールコートプレスに攻めあぐねる立命館だが、要所で#17 坂本がシュートを決めるなど得点を重ねる。残分 4 で立命館がタイムアウトを要求。タイムアウト直後のプレイで立命館#5 黄がシュートを決めるも、すぐさま学泉大も加点する。立命館はオールコートディフェンスで最後の力を出し切るも、学泉大は最後まで手を緩めず、89-57 で BEST 4 入りを決めた。

記入者：村井 ひかり